

## 実りの季節がやってきました

9月は日本では台風等で局地的な大雨の被害があったと報道されておりましたが、一方カンボジアも雨季まただ中。昨年よりも雨が非常に多く、このまま降り続けば国道が冠水する恐れも出てきました。農場の方も天気と相談しながら作業をしているのですが、雨が降り続いてレモンガラスが干せなかったり、圃場に入れた機械が足を取られて立ち往生してしまうような状態です。それでは下記今月の活動を報告させていただきます。

### ① 稲刈りの実施と、水田の今後の予定。

SAJ Farm では雨季の間に2期作を行い、1年間での収量の増大を図るため田植後3カ月で収穫できる3カ月米を栽培しています。丁度6月初旬に植え付けた稲が収穫時期を迎えました。今回刈り取りしたのは、農場造成終了後から継続して栽培している水路近くの3枚の水田と、今年度初めて作付けた3枚の水田の計6枚の水田です。今年の田植は全水田に紐を張り30cm間隔できっちり植えました。一般的なカンボジアの農家さんは空いている所にどんどん植えていくので、それに比べると面積当たりの植え付けた株は少ないです。その分ひと株当たりが大きくなってくれることを期待して植え付けました。継続して栽培している水田では結果として2011年度から順に10aあたり175kg⇒200kg⇒245kgと年々収穫量が増えています。カンボジアの平均収穫量が10aあたり200kg。お隣ベトナムでも年2回収穫して360kgぐらいとのことですのでまずまずというところなのですが、新規に作付けた水田ではやはりまだ土が出来ていないためか、非常に株が小さく、一番悪いところではひと株から2、3本の穂が出るとどまりました。10a当たりの収穫量だと50kgに届かないと思われます。3年間継続して手をかけたところと新規のところでは如実に差が表れる結果となりました。全体的な収穫量を増やしていくために、今後も有機物を供給しながら作物を栽培していき、土づくりを続けていきます。



スタッフ総出で行った稲刈りの様子

10月には継続して栽培している3枚の水田では2期作目の田植を予定しています。昨年の2期作目は10aあたり100kgでしたのでそれを超えることを目標としています。その他の水田では土を作るために空気中から肥料となる窒素を取り込める大豆などのマメ科作物の栽培を予定しています。SAJ Farm ではプノンペンのコーヒー業者様からコーヒー粕を頂き、肥料として使用しています。以前も書かせて頂きましたが、カンボジアで一般的にのまれているコーヒーはインスタントコーヒーに使われるロブスター種でそのままでは苦みが強いので、焙煎した大豆と合わせることで風味を増しています。今の目標の一つとしては、水稻の後に大豆を作ることで土を肥やす。出来た大豆はコーヒー業者様に卸し、またコーヒー粕を頂くという循環型の農業の形を作ることです。また、大豆はコーヒーの原料のほかにも豆乳や豆腐、納豆、みそ、醤油など幅

広い用途があり需要もあります。6月に農家さんのところに調査に伺った際、問題点の一つとして肥料が高く、買いたくても買えないという声がありました。SAJ Farm で大豆を取り入れた栽培モデルを作り、周りの農家さんに普及していきたいと思います。

② レモングラス乾燥用のハウスの建設を始めました。

SAJ Farm では収益作物として、比較的肥料が少なくても収穫できるレモングラスを栽培しています。刈り取ったものを天日で乾燥し、細かく裁断した後、お茶の原料として日本に出荷させて頂いています。しかし雨季の間は天候が安定しないため、乾燥が非常に難しいのが現状です。冒頭にも書かせて頂きましたが、雨が連日降り続けるとレモングラスを乾燥することができずせっかく収穫した物がかびてしまい廃棄せざる終えない状況も起きています。そこで今回、(有)ワタミファームの皆様の協力のもと、レモングラスを乾燥させるためのビニールハウスを建設させて頂くことになりました。日本でビニールハウスを建てる場合、ハウスの資材業者から資材を購入し組み立てるのですが、まだカンボジアには専用の資材を扱っている所がありません。現地でビニールハウスを建設し、野菜を栽培している業者の方にお話をお伺いしたのですが、自分達で材料を加工してハウスを建てているというお話でした。というわけで、ホワイトボードに簡単な図を書いて現地スタッフと打ち合わせしながら材料を加工し、建設開始する運びになりました。最初は金属用のネジで部品と部品を固定していたのですが、強風でネジが切れて振り出しに戻ったため、溶接に切り替えたりと試行錯誤の毎日。なんとか骨組みの部分は9月中に完成することが出来ました。10月の頭にはビニールが届く予定ですのでSAJ ツアーで来場される方には完成した姿をお披露目できると思います。



完成したビニールハウスの骨組み

## 編集後記

今回、一から自分達でビニールハウスを建てることになり感じたのは、何より日本の部品が便利にできていることです。日本のものは特別な工具を必要とせずに組み立てるように出来ているのですが、こちらではパイプ一本つなぐのに四苦八苦することになりました。一番難しいのがビニールを骨組みに固定することなので今から戦々恐々としているのが正直なところです。

上井